ちぎりたての梅（宮内梅まつり）

# うたごよみ　～水無月～

米納三雄 選

## 【短歌】

変わりなく桜満開に咲きたれど今年は何故か喜び難し　緒方　明美

さわやかに窓に入り来るそよ風を両手に掬い香り楽しむ　赤星　延子

旬を食す苦み渋みも味のうち筍・わらび・たらの芽にウド　塚原　暁益

大地震の後も余震の続きいて地域の人らの無事祈るのみ　本田冨美子

山藤の紫深く垂れ咲きて花房ゆらし気高く香る　松本ぬい子

笑い声絶えることなくプレーするミニゴルフ楽しむ部落のきずな　森田　房恵

一度すら涙は見せず子供らを育てし母の三回忌今日　内田乃武子

薄紅の花咲き初めし今朝の庭牡丹花守るか傘立ててあり　井上ユリ子

青空に真鯉緋鯉を泳がせて男の子の名乗り高々と立つ　上村　かず

透き通る春の日差しの中にして木陰に憩えば風の爽やか　吉永由紀子

住職の法話は落語のごとけれど笑いの中に多くを学ぶ　上村やす美

根の張りし草に手こずる老い吾に大丈夫かと言いたげな猫　内山タミエ

側近の老犬トミータ暮れの散歩の供に尻尾振り行く　渡辺　幸士

## 【川柳】

### 【鯉のぼり】

青空に息膨らます鯉のぼり　道上キヌ子

強風に喜び跳ねる鯉のぼり　早　彦喜

希望乗せ天まで泳げ鯉幟　古閑チヨミ

鯉のぼり孫と指差し散歩道　緒方　瑞枝

菖蒲湯に孫と眺める鯉のぼり　布田　愛子

鯉のぼり泳ぐ姿に元気づく　福田　清子

### 【噂】

七十五日　寿命短い噂風　伊豆野ヤエ

遠く住む友が認知（にんち）症と風便り　北　仁子

いい娘だと噂にされて見初められ　成松　松枝

真実と噂の中で悩む友　林　雅之

社の噂エレベーターで上下する　渡辺　幸士

## 【俳句】

シャボン玉夢は広がる大空へ　高田レイ子

一人喰ぶ中餉ささやか木の芽和え　堀田　孝恵

曾孫抱きし孫来る待てば燕来る　田端　慶子

ドライブの春を満喫子に感謝　楠本　美鶴

被災地に春は来たかと訪ねたき　古田　幸子

老いてなお働く幸せ春彼岸　本田　信子

■お問い合わせ先　町教育委員会公民館事務局
TEL 096-234-1111（内線321）

## ひとの動き（敬称略）
4月11日(月)～5月10日(火)

### birth お誕生おめでとう

| 住所 | 氏名 | 性別 | 保護者 |
|---|---|---|---|
| 横田 | 島田 剛勝（たけかつ） | 男 | 勝豪 |
| 岩下 | 岩崎 古都美（ことみ） | 女 | 敏朗 |
| 田口 | 喜田 莉奈（りな） | 女 | 義広 |

### marriage ご結婚おめでとう

| | 住所 | 氏名 |
|---|---|---|
| 夫 | 緑町 | 坪根 智則 |
| 妻 | 熊本市 | 生田 有絵 |
| 夫 | 熊本市 | 髙木 翔太 |
| 妻 | 西寒野 | 田浦 美鈴 |
| 夫 | 山鹿市 | 杉本 一博 |
| 妻 | 豊内 | 村上 香織 |
| 夫 | 熊本市 | 古谷 亮 |
| 妻 | 世持 | 上田真由美 |

### condolence お悔やみ申し上げます

| 住所 | 氏名 | 年齢 | 世帯主 |
|---|---|---|---|
| 中山 | 堤 繁幸 | 78 | 光昭 |
| 豊内 | 中島 重昭 | 68 | 民子 |
| 下横田 | 吉村 スヱ | 99 | 孝義 |
| 豊内 | 村上 悦子 | 73 | 靖喜 |
| 上早川 | 本田ナツメ | 95 | ナツメ |
| 白旗 | 金柿 政春 | 88 | 政春 |
| 上早川 | 勝木チスコ | 98 | 清知 |
| 中横田 | 松永 一郎 | 97 | 博文 |
| 糸田 | 畑田マサエ | 83 | 秀博 |
| 仁田子 | 松本 治幸 | 85 | マツ子 |
| 緑町 | 亀井ノブ子 | 85 | ノブ子 |
| 津志田 | 北 信子 | 91 | 眞誠 |

### Data 甲佐町の人口・世帯数

| 項目 | 数 | 増減 |
|---|---|---|
| 男 | 5,406 | △5 |
| 女 | 6,096 | △14 |
| 計 | 11,502 | △19 |
| 世帯数 | 4,185 | △4 |

平成23年4月30日現在

〔町史編さんだより〕

1,000年以上の歴史がある「益城」の由来

# 甲佐の歴史を紡いで
～町史編さんだより(33)～

## 「益城郡」の呼び方の歴史

町史編集委員 島津 義昭（地理）

「益城郡」は、古代からありました。

大化の改新と呼ばれている、税金を取るために全ての土地が国家のものであるとする諸改革が行われ、やがて大宝律令（701年）が完成し、律令制度による政治の仕組みが完成しました。全国の地方制度は国・郡・里（郷）として整備・設置されました。肥後国にも13郡（平安時代に14郡）が置かれ、この中に「益城郡」が見えます。

「益城」という言葉の意味はよく分かっていません。古代の書籍（倭名抄）では、「益城郡」の中には8郷（ムラ）がありました。その郷名にも「益城」と見えるので、おそらく地区の名前で、熊本市城南町陳内地区の周辺にあったと考えられます。

「益城」の読みは「万志岐」とあり今日と同じです。律令制度が衰退していった11世紀、中世初めの古文書には「益城上郡」、「益東」と書かれた地域もあり、古代の益城郡から中世の名称に変わっていきました。広い郡を「益城上郡」、「益城下郡（これは古文書には見えません）」や「益東」、「益西（これも見えません）」に分けました。

「益城郡」が今日のようにはっきり上・下に分かれたのは近世（江戸時代）肥後藩支配の時代です。18世紀、独自の「手永制度」の下で沼山津・木山・矢部の3手永を「上益城」、鯰・甲佐の2手永を「中益城」、杉島・河江・廻江・中山・砥用の5手永を「下益城」と呼んでいました。そののち上・中を合わせて上益城、そのほかを下益城と呼びました。しかし益城という呼び方も依然として使われました。

1871（明治2）年の廃藩置県ののち、熊本藩や熊本県（一時白川県と改称）は地方制度の改革を進め、今日の「上益城郡」が成立しました。

普段、何気なく使う「益城」にも1000年以上の歴史があります。

▼『甲佐町史』編さんに関するお問い合わせ先
町社会教育課町史編纂係
☎096-234-3310

## 編集後記

開店準備に取り掛かる、お食事処「ごはんよ～」の調理場。次々と聞こえてくるのは、厳しい指示の声と和やかな笑い声。

お金をいただく料理を調理する経験の浅いおばあちゃんたちに、ときには厳しく、ときにはユーモアを交えて指示する料理研究家・沼田さんの響く声。料理器具の衛生管理、料理の盛り付け方、お皿の並べ方など矢継ぎ早に指示が飛び、「いくつになっても、勉強、勉強よ」と準備に励むおばあちゃんたち。

笑顔で舌を出しながら、「皆さんから、『先生は鬼ね』と言われたんですよ。でも、お客様に出すものを作るには、絶対に守るべき厳しさが必要」と振り返る沼田さん。『だから、『先生、また開催したいね』と話が出たのがうれしくて。もう、次の構想を練ってますよ、お楽しみに」と光輝く声は朗らか。（と）